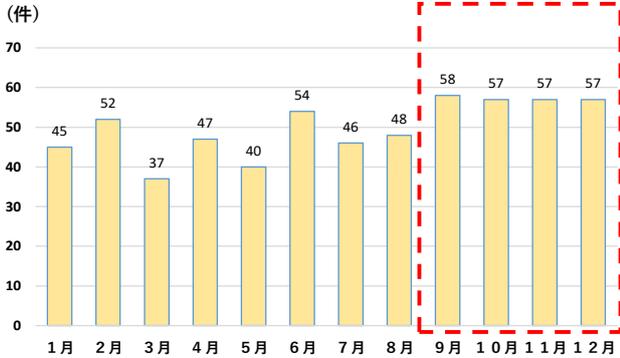




(平成26年～令和5年)

車両(特定小型原動機付自転車、軽車両を除く)の運転者が飲酒運転をして、第1当事者(過失の重い者、過失が同等の場合はけがの程度が軽い者)になった人身事故

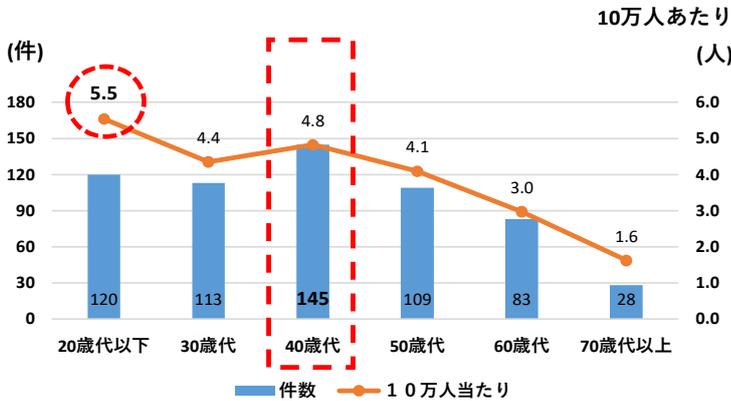
## ● 月別の発生件数



9月～12月が多い!



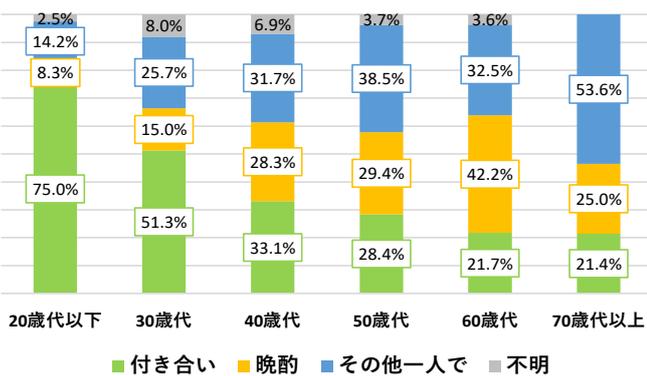
## ● 年代別件数と免許人口10万人あたりの人数



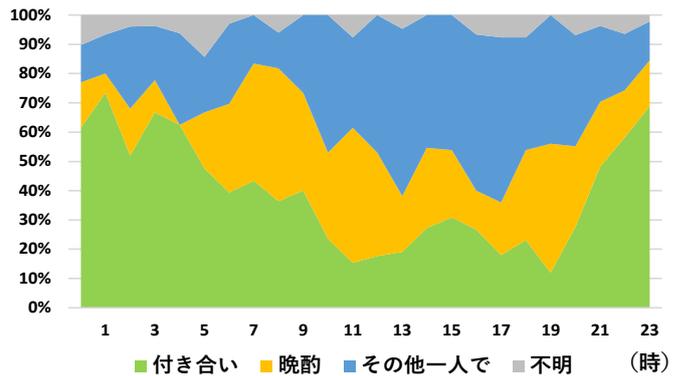
件数は40歳代が最も多く、免許人口10万人あたりの人数は20歳代以下が最も多い!



## ● 年代別飲酒理由(構成率)



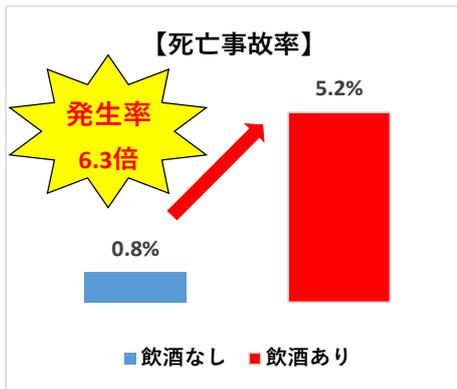
## ● 飲酒理由別発生時間(構成率)



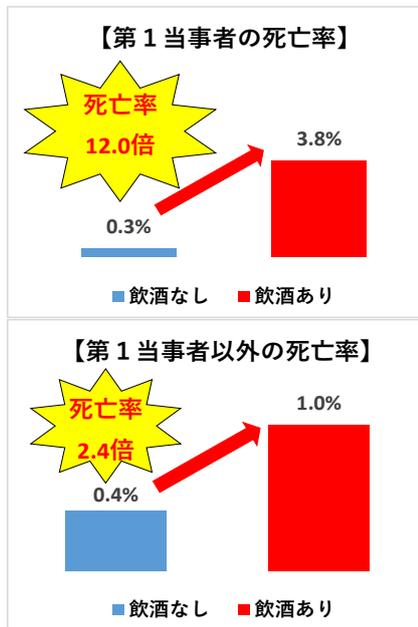
### 〈飲酒運転を防ぐポイント〉

- 若年代  
飲酒理由は「付き合い」が多くなっており、「付き合い」による事故は深夜帯に多発しています。終電を把握する、事前に運転代行を予約するなど、帰り足を確保してから飲みましょう。
- 中年世代  
「晩酌」、「その他一人で」を理由とした事故が多くなっています。「晩酌」による事故は午前中の発生が多くなっていますので、飲み過ぎないように注意し、アルコール検知機等を活用しましょう。
- 高齢世代  
「その他一人で」を理由とした事故が半数以上を占めています。1人で飲むと監視の目がなく、飲酒運転をする一因となりますので、なるべく2人以上での飲酒を心掛けましょう。

# 死亡リスク



注) 飲酒なしは、車両（特定小型原動機付自転車、軽車両を除く）の運転者が第1当事者になった事故。以下同じ



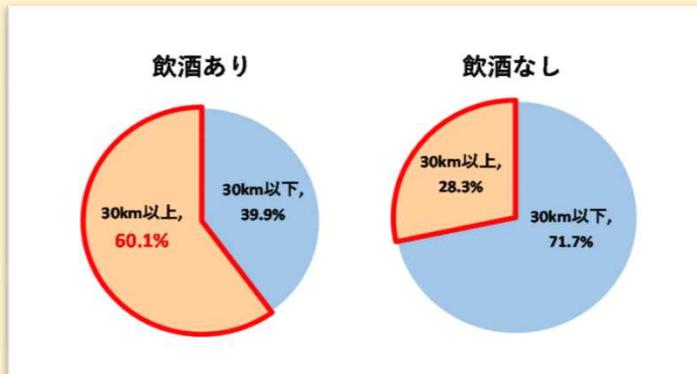
飲酒ドライバーは  
死亡率  
12.0倍！

事故の被害者、同乗者は  
死亡率  
2.4倍！

## 飲酒運転が危険な理由

### 危険認知速度が高い

【危険認知速度構成率】



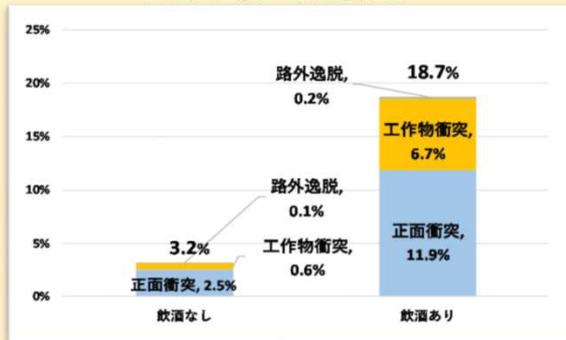
※危険認知速度…運転者が危険に気付き、事故回避行動をとる直前の速度。危険に気付かず事故を起こした場合は、事故を起こす直前の速度。危険認知速度が高いほど死亡事故率が高く、30km以上から対歩行者、自転車の死亡事故率が急上昇する。

危険認知速度30km以上の割合  
飲酒なしの場合…28.4%  
飲酒ありの場合…60.1%！！



### 車線逸脱事故の発生が多い

【車線逸脱事故の割合】



※車線逸脱事故…正面衝突事故、工作物衝突事故、路外逸脱事故のこと。令和元年～令和5年中に県内で発生した車線逸脱事故の死亡事故率は12.1%で、その他の事故の約20倍にものぼっている。

車線逸脱事故の発生割合  
飲酒なし…3.2%  
飲酒あり…18.7%！！



## 飲酒運転しない・させない・許さない！

飲酒運転は卑劣な犯罪だという認識を持ち、その根絶に向けて、飲酒運転を許さない社会づくりをしましょう！

### 飲酒運転で失う6つの宝

- 1 命（死亡事故に直結）
- 2 家族（離散、崩壊等）
- 3 仕事（会社等は解雇に）
- 4 社会的信用（新聞、テレビ等で報道）
- 5 免許（免許取消し）
- 6 お金（罰金刑や遺族補償）